

発行・編集 益田家畜保健衛生所（西部農林水産振興センター益田家畜衛生部）
 〒698-0007 益田市昭和町13-1 益田合同庁舎1階
 TEL 0856-31-9730 FAX 0856-31-9739

飼養衛生管理基準の遵守で伝染病を防ぎましょう！

例年にも増して長く暑い夏が終わり、過ごしやすい季節となりました。

高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）のハイリスクなシーズンに入ります。北海道において野鳥から HPAI が 2 事例確認され、国内への本ウイルスのまん延が懸念されていましたが、10月16日に北海道厚真町の肉用鶏農場で今季養鶏場初となる HPAI が発生しました（右図）。

重点対策期間として、渡り鳥の飛来が本格化する 10 月から翌年 5 月までは警戒を強化していただき、下表の防疫対策ポイントについて徹底をお願いします。

R6-7 シーズン HPAI 確認状況



- ・家さん飼養農場における発生予防の徹底
 - 入出時対策：**消毒・更衣前後における**交差のない動線、明確な境界**の確保。
 - 野生動物対策：**農場内の整理・整頓、堆肥舎や鶏糞排出口への**覆い**の設置。
 - 入気口対策：**粉じん、羽毛等の取り込み対策に**野鳥避け**の設置。**フィルター**設置も検討。
- ・飼養衛生管理基準の遵守状況の一斉点検
- ・まん延防止対策
 - 毎日の健康観察、異状の早期発見 & 早期通報、疾病発生時の円滑な防疫措置に必要な事前準備
- ・監視体制、環境対策等：農場周辺の水場、環境での野生動物対策。

豚熱（CSF）については、管内で1年ぶりに野生イノシシで CSF 陽性個体が確認され（昨年5月以来、右図）、環境中のウイルス濃度が高くなってきていることが想定されます。

牛においても、乳生産や増体に重大な損失を与える伝染性下痢（コロナウイルス）、呼吸器病（RSウイルス）は、これからの寒冷時期に流行しやすくなります。

今現在、飼養者の皆様のご尽力により、県内農場において HPAI、豚熱といった重大伝染病は発生しておりません。家畜種を問わず、伝染病防御に有効なのが“飼養衛生管理基準”の遵守です。適切な衛生管理を実施することにより、伝染病発生防止はもとより、増体等の生産性向上にも確実に繋がります。

農水省 HP では、各畜種ごとのガイドブックや外国人労働者向けのポスター等も掲載されています。今一度、農場内で共有して衛生管理の徹底を図り、伝染病を防除しましょう！

管内野生イノシシ豚熱の確認状況



牛伝染性リンパ腫・牛ヨーネ病の検査について

西いわみ和牛改良組合で対策に取り組むことになった「牛伝染性リンパ腫」や、5年に1回検査を実施するよう法律で定められている「牛ヨーネ病」について、病気の名前は聞いたことがあっても、どんな検査を家畜保健衛生所で実施しているかご存じの方は少ないのではないのでしょうか。

当所では、採材した血液を用いて、抗体（病原体に感染した証）の有無を調べています。それぞれの病原体に特化した検査薬と血液成分を反応させ、検査プレートが青色や黄色に発色することで感染の有無（陽性・陰性）を判断しています。



令和6年度西部地区子牛共進会について

10月18日、令和6年度西部地区子牛共進会が開催されました。

管内からは11頭の出品があり、全頭が発育判定4以上と甲乙つけがたいなか、水津誠司さんの「みどり」号が首席に輝きました。本牛は発育、資質ともによく、特に前から見た時の前駆の幅、張り、深みに富み、加えて体積感のある中駆へのなだらかな移行など優れた種牛性により最高賞となりました。

水津さんおめでとうございます！



獣医師確保対策の実施状況について



インターンシップの様子

島根県では、獣医師確保対策の一環として毎年獣医学生のインターンシップを実施しています。今年度は益田家保で、8月30日と9月6日の2日間で計16名の学生を受け入れ、松永牧場さんにて飼養管理技術を学ばせていただきました。学生たちは初めて見る超大規模農場に圧倒されながらも、積極的にメモを取ったり質問したりする姿勢が見られ、産業動物分野で働く獣医師の仕事の一部を体験してもらったいい機会になったのではと思います。ご協力いただきました松永牧場の皆様、本当にありがとうございました。

また、農林水産省でも産業動物獣医師を確保するための施策を行っており、「ブイブイ調査隊」としてYouTubeで動画が公開されています。畜産関係者の皆様もぜひご覧いただき、産業動物獣医師の魅力発信にご協力いただけますと幸いです。



ブイブイ調査隊のYouTube

編集後記：気象庁の発表によると、この冬の気温は平年並み、降雪量は平年よりも多くなるようです。過ごしやすい季節はあっという間に終わり厳しい冬がやってきますが、人も動物も、何事もなく元気に春を迎えられることを祈るばかりです。